

大塚山処分場の漏洩問題は、ほんとうに解決できるのか？ もしできなければ、富津の井戸は、川は、海はどうなるか？

皆様もご存じの通り、大塚山の大平興産(株)管理型最終処分場は、「不透水性岩盤だから遮水シート不要」として許可され、一九九二年以来、第一 第二処分場あわせて二百万㎡に及び管理型廃棄物が埋め立てられています。

ところがこの底から、高濃度塩化物イオンを含む保有水が漏洩していたのです！

千葉県は二〇〇六年八月二日、「保有水浸出の原因究明」「保有水の浸出防止対策」「改善が確認されるまでの間埋立て処分の停止」を事業者に勧告しました。

事業者はNPO日本地質汚染審査機構に浸出原因の究明と防止対策の追求を委託。その結果が、二〇〇七年十一月二十一日、千葉県環境生活部廃棄物指導課より地元の説明されました。

漏洩の原因究明結果は、第二処分場の一部にある三つの透水性地層を通して保有水が漏洩していることが判明した。

漏洩対策は、漏洩する保有水を汲み上げて浄化するための井戸四八本による揚水を開始。対策実施により、下流部へ漏洩水の拡散が防止され、また周辺の塩化物イオン高濃度区域の縮小が確認された。

「大塚山処分場の漏洩問題の 解決を求める第一回市民集会」

日時 二〇〇八年三月二十九日(土)午後一時半～四時

会場 富津市市民会館大ホール (上総湊駅から徒歩で5分)

内容 一 講演 どんなものが漏洩する危険があるか。

漏洩を完全に止める方法はあるのか。

二 講師 日本環境学会 坂巻幸雄先生(地質学)

千葉工業大学 八尋信英先生(化学)

千葉県、大平興産(株)、NPO法人理事榎井久氏に参加要請中。

「大塚山処分場の漏洩問題の解決を求める市民集会」実行委員会

(まちづくり懇話会グリーンネットかつ有志 夫羽の水を守る会
小櫃川の水を守る会 残土産廃問題ネットワークちはほか)

今後の対応は井戸列揚水を恒久的な対策として、処分場の廃止基準を満たすまで維持管理を実施させる。第一処分場についても、第二処分場と同様に漏洩に関する調査を実施させた上で、必要な対策を講じさせる。県は、引き続き、地下水観測井、放流水の水質が基準以内であるかどうか定期的に立入検査により確認していく。

この後、千葉県は二〇〇七年十二月十四日、一方的に第三処分場の変更計画申請を許可しました。

漏洩の全貌はまだ掴めていません。漏洩を完全に止める方法も掴めていません。それなのに、第三処分場に危険な汚染物質をいっぱい含んだ廃棄物がさらに三〇万㎡も、運び込まれるのです。

どうしたらいいか、みんなで考えようではありませんか！